

第109回リニアドライブ技術委員会議事録案

日時：平成20年4月4日(金) 13:30～16:00

場所：JR 東海 品川ビル A 棟 会議室

出席者：委員長 脇若 (信州大)

副委員長 北野 (JR 東海)

委員 小豆澤 (神戸大), 岩松 (鉄道総研, 代理長嶋), 海老原 (東横女短大),
大崎 (東京大), 花岡 (東洋電機製造), 樋口 (長崎大)

増澤 (茨城大), 矢野 (産総研), 森下 (東芝), 渡辺 (IEEJ プロフェッショナル),

幹事 水野 (信州大), 村井 (JR 東海)

幹事補佐 矢島 (SMC)

提出資料

- 109-1 第108回リニアドライブ技術委員会議事録案 (鳥居幹事補佐)
- 109-2 リニアドライブ技術委員会名簿 (鳥居幹事補佐)
- 109-3 第88回(H19年度第4回)産業応用部門研究調査運営委員会報告 (小豆澤委員)
- 109-4 平成19年度リニアドライブ技術委員会活動報告 (小豆澤委員)
- 109-5 平成20年度(H20年4月～H21年3月) 活動計画(3次案) (小豆澤委員)
- 109-6 平成20年度連合研究会に関する回答 (小豆澤委員)
- 109-7 平成19年研究会優秀論文発表賞A(本部表彰) (北野副委員長)
- 109-8 平成19・20年度リニアドライブ関連各委員会 予定一覧 (脇若委員長)
- 109-9 LD技術委員会傘下の各委員会の資料提出スケジュール(案) (村井幹事)
- 109-10 交通・電気鉄道 リニアドライブ 合同研究会 (北野副委員長)
- 109-11 多自由度モータのシステム化技術調査専門委員会 活動方針及び報告書(案) (矢野委員)
- 109-12 磁気支持応用における電気・機械システム融合化技術調査専門委員会 解散報告書(案) (森下委員)
- 109-13 磁気支持応用における電気・機械システム融合化技術調査専門委員会 (MLV) 活動報告 (森下委員)
- 109-14 多自由度モータのシステム化技術調査専門委員会 (MDD) 活動報告 (矢野委員)
- 109-15 産業用リニア駆動システムにおける要素技術の体系化調査専門委員会 (MEL) 活動報告 (矢島幹事補佐)
- 109-16 第11回多自由度モータのシステム化技術調査専門委員会 議事録 (矢野委員)
- 109-17 第5回産業用リニア駆動システムにおける要素技術の体系化調査専門委員会議事録 (矢島幹事補佐)

議事

1. 委員長あいさつ

脇若委員長からあいさつがあった。目標として下記の2点が挙げられた。

- (1) リニアドライブ研究会の活発化
- (2) 研究会資料を読む人を増やす

2. 議事録確認

資料109-1を用いて議事録の確認を行い、承認された。小豆澤委員から議事録を上部委員会に提出する必要はないとの意見があった。

3. 報告事項

- 3.1 資料109-2を用いて、委員会名簿の確認が行われた。新たに花岡委員(東洋電機製造)、樋口委員(長崎大)、矢島幹事補佐(SMC)が参画した。
- 3.2 資料109-3を用いて、小豆澤委員から第88回D部門運営委が報告された。海老原委員から調査専門委員会設置趣意書について委員長・幹事・幹事補佐は委員でなければならないにも関わらず、様式で非会員の記載があり誤っていると指摘があった。規定は変わっていないので確認すべし。小豆澤委員から、オンデマンド出版について費用がうやむやになっていると指摘があった。
- 3.3 資料109-4を用いて、小豆澤委員から昨年度のリニアドライブ技術委員会の活動内容が報告された。
- 3.4 資料109-5を用いて、小豆澤委員から本年度のリニアドライブ技術委員会の活動計画が報告された。

- 3.5 資料 109-6 を用いて、小豆澤委員から東京支部から連合研究会に参加する連絡があったが、断つたと報告された。時期的に合わず、D 部門は以前からあまり参加していない。
- 3.6 資料 109-7 を用いて、北野副委員長から、H19 年研究会優秀論文発表賞受賞 A（本部表彰）の受賞者が報告された。次回委員会（7/18 東京）で表彰式を行う。
- 3.7 資料 109-8 を用いて、脇若委員長から本年度のリニアドライブ関連委員会および関連会合の予定が確認された。
- 3.8 資料 109-9 を用いて、村井幹事補佐から各調査専門委員会の資料提出スケジュール（案）が提案された。NAD 委は平田委員長欠席により提出されなかった。MLV 委は提出済み。
- 3.9 資料 109-10 を用いて、北野副委員長から 7/24、25 に鹿児島で開催される TER/LD 合同研究会が案内され、参加するよう声を掛け合っていて欲しいと依頼された。LDIA2009 についても AEM 学会理事会（4/22）、能率協会のモータ展（4/16～）で Call for paper を配布し、参加を呼びかけることとなった。
- 3.10 資料 109-11 を用いて、矢野委員から MDD 委の活動方針及び報告書（案）が報告された。内容は前委員会で審議済みで今回は報告のみ。

4. 審議事項

- 4.1 資料 109-12 を用いて、森下委員より、MLV 委の解散報告書（1 次案）についての説明があり、審議された。「融合化」について具体例が示されていないことが指摘され、活動報告の章にどうやって入れるか検討された。次回委員会（7/18）に再度、解散報告書と設置趣意書を提出し、その後メール審議することとなった。
- 4.2 委員の構成・任期が確認され、以下が決定した。村本委員は花岡委員に交代済み。論文担当は水野幹事から樋口委員に交代。矢野委員・小豆澤委員を 1 号委員にする。北野副委員長を更新する。樋口委員は 1 号委員かつ論文幹事とする。
- 4.3 脇若委員長からリニアドライブ研究会を活発化させるための案が求められ、以下が提案された。
 - C1 現状の LD 研究会で、発表する人がほとんどで、発表しない参加者は少ししかいないという場合がある。しかし、先日の MAG 研では 30 件の発表に対し、30 人の聴衆がいた（脇若委員長）。
 - C2-1 LD 研究会の問題は企業からの発表が少ないことである。発表形態を変えてもよい。カタログを少し詳しくした程度でよい。製品紹介でも良い。また、企業が知りたいテーマの発表をする（海老原委員）。
 - C2-2 研究者・研究仲間は仲良し（海老原委員）
 - C3-1 精密工学会のリニアは活発であり、見習うべきである。ジョイントできないか（海老原委員）？
 - C3-2 精密工学会では親分がいて研究会が活発である。そこをリンクしていっしょにやっていけば良い。そこから人が流れ込んでくる（水野幹事）。
 - C3-3 研究会の場合、著作権が問題となる。対等であればあるほど問題となる（大崎委員）。
 - C3-4 LD 研で資料なしでも発表してもらいたい（脇若委員長）。
 - C4 委員長で集まると、今一番元気のいいのは自動車である。自動車はフォーラムでお金が入り、若手に国際会議に出席する援助金を出している。うまく回っている。
 - C5-1 色々な会社がアクチュエータをやっている（海老原委員）。
 - C5-2 浜松に小さいアクチュエータ（ソレノイド）のメーカーが多くある。彼らはソレノイドを何に使われているか知らない。どこに技術を聞いてよいか分からない。そこに LD 技術委員会の役割がある
 - C6 機械学会が低迷したとき、学生の就職説明会をやって製品（技術）説明をして学生を集めた。企業からお金を出してもらい、懇親会で学生と飲んだ（矢野委員）。
 - C7 研究会の枠をはずして、海老原委員に発表してもらおう（水野）。
- 4.4 小豆澤委員からの引継ぎの挨拶（後記）を受けて、~~機械~~学会との連携・産学連携にあたり以下が提案された。
 - C1 機械学会・AEM 学会でリニアモータの発表をしている人がいる。その人をマークして、その人を呼び込む。データベースを作り、LDIA などのアナウンスをする（海老原委員）。
→ 能率協会は渡辺委員、AEM 学会は岩松委員にお願いすることが決定
 - C2-1 産学連携では、地域からお金がでていて先生がいなくて困っている。コンソーシアムだと、例えば地方大学内でやろうとしている。LD から手を挙げて、発表（費用を取って講演する）すればよい（渡辺委員）。
 - C2-2 データベースをつくって、発表するテーマをばらまけばよい（海老原委員）

5. 各調査専門委員会活動報告

資料 109-12～109-17 を用いて、各調査専門委員会から活動報告があった。

6. その他

委員会の最後に、前委員長である小豆澤委員から引継ぎのあいさつがあった。前々委員長の大崎委員から引き継いだ目標として以下を挙げ、より LD 技術委員会を活発化して欲しい。

- (1) 国際活動 (LDIA, MAGLEV)
- (2) 国内のシンポジウムの対応 (ダイナミクスへの協力)
フォーラムによる収益拡大
- (3) 産学連携 (リニアモーターメカに学会参画を呼びかける)
- (4) リニアドライブ基盤の強化
研究・特性測定標準化
- (5) 異分野融合の推進
- (6) 機~~械~~学会・精密工学会との連携

械

以上